部　方　針　書

年度	部名	部長名
R5	交通局	大谷唯輝

1　部の経営方針　部全体を俯瞰したマネジメントの目標

No	項目（業務、組織、人材等に関するマネジメント目標ごとに記載）
1	輸送の安全確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、経営のトップから現場の職員までが一体となって安全運行に取り組む。
2	健全な経営の安定化を図るため、「宇部市交通事業経営戦略」に基づく各取組を効果的に推進していく。
3	安定した事業運営のため、定員適正化に向け、特に運転士の確保に取り組む。
4	デジタル化の推進、ICカードの利用者データの集積によるエビデンスに基づいた路線再編と時刻の見直しで利用者へのサービス向上を図る。
5	
6	

◎心理的安全性確保に向けた取組（記入必須）

①勤務終了時の運転士に管理職が声かけをする「お疲れ様デー」の継続実施　②希望者が管理職に何でも相談できる「なんでも相談コーナー」の開設

2　部が所管する主な個別計画　前期実行計画に掲げる施策に関連する特定分野における計画

No.	計画名	計画期間	前期実行計画分類	No.	計画名	計画期間	前期実行計画分類	No.	計画名	計画期間	前期実行計画分類
1	宇部市交通事業経営戦略	R3～R12	基本目標5 安心・安全	2				3			
4				5				6			

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R5	交通事業課	八木　巧

1 課の使命

課の果たすべき責務、存在理由
・人口減少、コロナ禍における市民の行動変容などに対応し、市の諸施策と連携しながら公共交通の利便性を向上させるとともに、利用を促進することにより、健全な事業体制の構築を図る。 **・市民生活に欠かせない移動手段として、路線バスの維持・確保を図るとともに、安心・安全で質の高い運送サービスを提供する。**

2 課の目標・アウトカム　前期実行計画及び総合戦略の目標、その他個別計画や課の使命等に基づく目標とアウトカム

目標No	目標・成果指標	計画種別	計画期間	目標値（単位）	R4年度末の実績見込値	R5年度末の目標値	アウトカム（ありたい姿・得られる効果）
1	定員の適正化（運転士数）	個別計画	R3～R12	68人	58人	68人	・路線バスの安定的な運行 ・運転士の労働条件改善（2024年法改正） ・安全及び接遇に関する集団研修によるサービスの向上 ・貸切バスの運行に伴う収支改善
2	路線バスの利用促進（1日の利用者数）	第五次総合計画	R4～R8	5,500人／日	5,123人／日	5,200人／日	・安心・安全な暮らしを支える地域公共交通の維持・確保 ・質の高い運送サービスの充実 ・市財政の負担軽減
3	ICカードの利用率向上 （バス利用者に占める割合）	個別計画	R4～R8	60.0%	17.7%	49.0%	・キャッシュレス化の推進 ・乗降時間の短縮に伴うバスの定時性確保 ・ICカードを活用した利用者データの集積と分析による利用者目線での路線及びダイヤの見直し
4	安全運行の推進（有責事故件数）	個別計画	R3～R12	人身　0件 物損　0件	人身　1件 物損　39件	人身　0件 物損　0件	・安心・安全な公共交通機関としての信頼性向上 ・事故費削減及び職員の負担軽減による利用者サービスの向上
5							

課 方 針 書

3 課の目標・アウトカムの達成に向けた取組とスケジュール

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
1	定員適正化事業	8名の運転士不足により、一人当たり月約30時間の時間外勤務が発生し、健康への影響から安全運行が脅かされている。 また、運転士不足から、貸切バスの稼働率が19%と受注抑制せざるを得ない状況にあり、収支改善の足かせとなっている。 今後も安全かつ安定した事業運営のため、運転士の確保が喫緊の課題である。	運転士数 66名	58名

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
・応募促進　運転士募集の情報展開、各種助成制度の見直し、運転体験会の実施、働きやすい雇用形態での募集、運転士養成枠採用制度の試行 ・離職防止　労働条件の見直し（待遇改善）、職員登用制度の条件見直し		3,500	68名
（庁内連携課）	都市計画課	うち一財　0	
（共創パートナー）	山口運輸支局、山口県交通政策課、ハローワーク宇部、山口県バス協会		

事業スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●就職フェア（4/27）	●運転体験会（5/25） ●ハローワークでの会社説明会（5/15） ●新川市まつりでの就業相談会（5/5）			●運転体験会（8/17）			●就職フェア（10月下旬） ●うべまつりでの就業相談会（11/5）	●運転体験会（11/23）			
自衛隊等への募集情報展開							職員登用制度条件見直し		職員登用試験		
	養成枠採用制度の構築		養成枠採用制度の試行実施								
実技試験の見直し								運転士　面談・意向調査			
雇用形態見直し・待遇改善・通年募集											

課 方 針 書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
2、3	路線バス利用促進事業	R元年度の１日あたりの路線バス利用者数は6,064人／日だったが、新型コロナウイルスの影響により、R4年度は5,123人／日とコロナ禍前の水準には戻っていない。そのため、利用促進サービスに取り組み、バスの利用者回復及び新規顧客の獲得に繋げることで、路線バスの安定的な運行を図る必要がある。 キャッシュレス、定時性確保及び利用データ活用がバス利用促進につながるICカードの普及促進を図る必要がある。 ICカード利用率はR4年度目標の32.0%に対し、R4年度末で17.7%となっているため、サブスクリプション定期券の発売及びICカード移動販売車の導入により、ICカード利用率49.0%達成を目標とする。	１日あたりの利用者数 4,800人／日	5,123人／日

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
・市のイベントと連携した「路線バス運賃無料デー」の実施 ・児童や高齢者を対象とした乗り方教室の実施 ・利用促進イベント（こども50円バス、中高生100円バス、ミステリーバスオリエンテーリング、イルミネーションバス等）の実施 ・新たに商業施設と連携した（仮称）市営バス感謝デーの実施 ・サブスクリプション（サバスク）定期券の新発売 ・紙式定期券の廃止 ・ICカード移動販売車の導入による販促キャラバンの実施 ・ICカードポイント付与サービスの導入		8,387	5,200人／日
（庁内連携課）	都市計画課	うち一財 0	
（共創パートナー）	商業施設		

事業スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	●運賃無料デー（5/5） 新川市まつり	運転士体験会					●運賃無料デー（11/5） 宇部まつり	乗り方教室			
			ミステリーバスオリエンテーリング			●(仮称)市営バス感謝デー (9/30)		イルミネーションバス			
	乗り方教室（社会見学）		こども50円バス 中高生ICカード限定100円バス			乗り方教室（社会見学）		こども50円バス			こども50円バス
	サバスク定期券マスタ設定				●サバスク定期券発売・紙式定期券廃止 サバスク定期券購入キャンペーン		利用促進キャンペーン（利用率に応じて実施）				
ポイントサービス導入準備					●ポイントサービス導入						
	ICカード移動販売車制作				●ICカード移動販売車導入		ICカード移動販売販促キャラバン				
出前講座（乗り方）											

課 方 針 書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
4	安全運行推進事業	R4年度は人身事故が1件、物損事故が39件と合計40件の有責事故があった。 このため、R5年度は事故発生の要因分析を行うとともに、人身事故はもちろんのこと、特にバス利用者に影響を与える営業中の物損事故をなくし、安心・安全な運行を使命とする交通局の信頼回復に最善を尽くす。	有責事故件数 人身事故 0件 物損事故 0件	人身事故 1件 物損事故 39件

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
・事故惹起者等へ適性診断結果やドライブレコーダーの記録を活用した個別添乗指導の実施 ・新人運転士のフォローアップ研修（1、3、6か月、1年）の実施 ・R4年度に起こった事故の発生状況（曜日、時間帯、運行内容、発生場所等）から要因を分析し、効果的な対策を実施するとともに、運行管理者が点呼時に運転士へ状況に応じた注意喚起の実施を徹底 ・外部講師（NASVA）による運転士及び運行管理者研修並びに安全運転接遇研修会の実施 ・段差がなく乗降にやさしいノンステップバス3台の導入によるバリアフリー化の推進		9,651	人身事故 0件 物損事故 0件
（庁内連携課）		うち一財 0	
（共創パートナー）	山口県バス協会、NASVA（自動車事故対策機構）		

事業スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			運転士・運行管理者講習会（NASVA）						●安全運転接遇研修会		
							●ノンステップバス導入（3台）		●無事故運転士表彰		
運転士を対象とした各種スクリーニング検査の実施（脳ドック、無呼吸症候群検査など）											
局の事故事例共有及び事故原因の分析、対策（安全衛生委員会、経営戦略会議、職員からの安全ボトムアップシートの活用）											